

# 授業力&学級経営力

Jugyoryoku & Gakkyukeieiryoku

明治図書



2015  
**4**  
NO.061

授業力&学級経営力

2015

特集

最高のチームで最高の1年をつくらう!

明治図書 21061

## ユニバーサルデザインでつくる!環境&指導アイデア 第1回

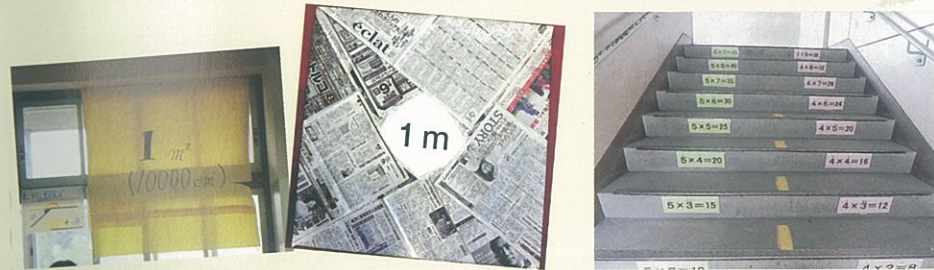
### 「どこでも」算数 ~教室の外での出会いの中に~

京都文教大学臨床心理学部教授 亀岡正陸

ユニバーサルデザインでつくる授業は、ノートや板書、指導法だけで構想されるものではありません。一人ひとりの個性を見据えつつ、活動豊かな算数を保障し、教室の中、そして教室外の環境下においても算数との出会いが自然にできるようにいろいろな工夫をすることが大切です。



4年生で1㎡を学習しますが、教科書の中だけでは把握しにくいものです。また場所を変えると広く感じたり、狭く感じたりします。廊下などいろいろなところに1㎡があると、自然と量感を育めます。1㎡の道具入れなんかをつくって置いておくだけでも楽しいですね。



右の写真は、新聞紙だけでつくった1㎡です。新聞紙の対角線がほぼ1mですので、新聞紙4枚でものさしなして1㎡が簡単につくれます。このような活動も大切です。

最近、階段に様々な情報を貼っている環境も目にします。貼っておくだけでなく楽しい活動と結びつけると、「どこでも算数」が工夫できます。

子ども集団を自在に動かす!  
統率力の磨き方

小特集

巻頭論文

学級づくりはクラスを  
チーム化することだ!

# 最高のチームで 最高の1年を つくらう!

特集

巻頭論文  
赤坂 真二



新連載

若手教師のための  
「指導案の書き方」教室  
佐藤 正寿

荒れたクラス  
一立て直しのポイント  
山中 伸之

授業力アップ! 学年別  
今月の板書アイデア

国語 水戸部 修治 編

算数 石田 淳一 編





これだけは  
身につけたい!

## 学級担任の基本のキ

作業をさせる」ことです。

例えば、「ごめんね、ちょっとその窓を開けてくれる」とお願いすれば、人間関係がとれていれば、必ずやってくれます。そして、間髪入れずに一言「ありがとうございます。君がいてくれて、先生は助かった」と。そんなことを数回続けていると、今度は子どもほうから「先生、窓開けてあげると言ってくれるようになります。すかさず、「ありがとうございます。君がクラスにいてくれて先生は最高の気分です」とほめてあげます。

4 叱るときはメッセージで  
伝え方には、Yoromessageとメッセージというものがああります。Yoromessageとは主語が「あなた」で、メッセージは

主語が「私」で伝える言い方です。

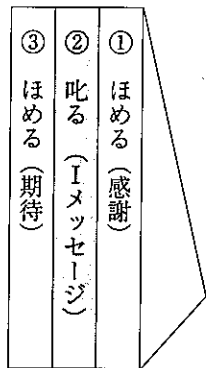
例えば、毎日遅刻してくる子どもをYoromessageで叱るときには、次のようです。「今日も遅刻するなんて、ダメじゃないか。しっかりしろ」となります。しかし、これでは叱られた感じが残り、人間関係が悪くなります。

これをメッセージで話してみると「△△さん、今日も遅刻してきたね。先生は、悲しい気分です」となります。この言い方は、気をつけてほしい点を明確にして、さらに感情を伝えることができます。

5 サンドイッチ法で叱る  
最後に叱るときに、ぜひ心得てほしいことを述べます。それは叱る前後を、ほめる内容で挟むということです。

例えば、「最近、授業で頑張っているよね」と子どもが認められていると感じていることをほめます。次に、メッセージで叱ります(前述)。最後に、もう一度、「勉強のように、生活もきちんとすると、信頼も高まると思うな」と期待を込めることです。

すると、自分のために言ってくれたのだと思えて、効果も高まります。詳しくは「図解 先生のためのコーチングハンドブック」(明治図書)を参考にしてください。



## ほめ方・叱り方スキル

愛知県刈谷市立朝日中学校 神谷和宏

1 「ほめる」はアクセル・「叱る」はブレーキ  
「ほめる」ことの大切さはよく知られていますが、私は「叱る」ことも極めて重要であると思っています。というのも、最近では叱れない教師が増えています。「ほめる」と「叱る」は、どちらも大切です。自動車に例えると、ほめることは「アクセル」、叱ることは「ブレーキ」です。

ほめることは、子どもの推進力になります。ちょっとだけほめても、なかなか前には進みません。常にほめ続けることが必要です。継続的にアクセルを踏んでいないと自動車も前に進まないのと同じです。しかし、アクセルだけでは自動車は勝手な方向に進み事故を起こします。制御のためのブレーキ

が必要なんです。同時に、自動車はブレーキだけでは全く前進しません。結局は「ほめる」「叱る」の両方が必要なのです。

私は、経験上「ほめる」と「叱る」の割合が、小学生なら10:1、中学生なら4:1くらいが丁度よいのではないかと思っています。そして、その方法を的確に語っているのに、山本五十六の有名な言葉、

「やってみせ、言ってみせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」

まさに、この一言に尽きると思います。私もよいと思います。

2 認めてほしい所を見つけて  
人は誰でも、自分のことを認められたがっています。子どもなら

なおさらです。つまり「認めてほしい」と思っている所がほめる所です。認めてほしいポイントやほめてほしいポイントは言葉や表情に表れます。日々子どもを観察していれば、わかるはずなんです。ですから、日頃から「子どものよい点を見つけて」ことが必要です。人はどちらかという欠点ばかりが目につきます。ですから、よい点を見つめるには、ある程度、練習が必要です。

3 ほめる所を見つけれない子どもには、どうするか?  
ほめる効果はわかっていますが、どうしてもほめる所が見つけれないという子どもがいます。その子にはどのように対処したらよいのでしょうか?

それには、「ほめるために簡単な